

音楽芸能スタッフ科 P A/音響コース 2年次 受講科目一覧

P A専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 4 5 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅱ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅱ（後期）	34	2	1
講義	一般教養Ⅱ	68	2	4
講義	音楽史Ⅱ	68	2	4
講義	舞台知識Ⅱ	68	2	4
講義	P C 知識Ⅱ	68	2	4
講義	コンサートスタッフ知識Ⅱ	68	2	4
実習	サウンドアナライズⅡ	68	2	2
実習	イクイップメントⅡ	68	2	2
演習	スタッフワーク基礎Ⅱ	68	2	4
演習	スタッフワーク応用Ⅱ	68	2	4
実習	P A 基礎Ⅱ	68	2	2
実習	P A 応用Ⅱ	68	2	2
講義	業界知識Ⅱ	72	2	4
合計		888	26	42

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	一般教養Ⅱ	年次	2年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☐	非該当 ☒
担当講師 実務経歴							

授業概要
①学生と社会人の違いを知り、社会人として必要なビジネスの基礎を中心にコミュニケーション力、ビジネスマナー、日本のしきたりを学ぶ。 ②具体的にはビジネスマナーの基本である第一印象、あいさつ、みだしなみ、態度、ことばづかい、話し方・聞き方、ビジネス文書、来客対応、仕事の進め方、食事のマナー、日本のしきたりまで学習する。 ③就職活動に必要な、自己PR作成や立ち居振舞いを実践し面接試験をクリアできる基本を学ぶ。
到達目標
・就職後に役立つビジネスマナーや社会人として求められる能力を習得することにより、社会人になるにあたっての意識の向上と基本的な心構えをもつことができ、組織にとって必要な人材になることができるようになる。 ・対人関係においてコミュニケーションを向上し、円滑な人間関係を築くための基礎を身につけることができる。 ・ビジネスマナーと接遇の基本の考え方を理解し、体得することによって実務能力を実践的に使えるようになる。就職活動方法及び面接・筆記試験対策を実践形式で行い、就職内定を最終目標とする。

対策	
【前期】 1～3回目	自己紹介：対策と解説
【前期】 4～7回目	マナー基本編の復習と応用編(ステップupマナー)
【前期】 8～10回目	マナーの実技編とアドバイス
【前期】 11～13回目	コミュニケーションの復習(話し方・聞き方・表情・態度)・実技編
【前期】 14～17回目	前期試験：マナー・コミュニケーションのレポート提出と実技の実施
【後期】 18～20回目	就活の為のマナー編(面接時における対応・入室・座・退室)
【後期】 21～24回目	質問に対する返答への対策
【後期】 25～27回目	社会人としての仕事への取り組み方
【後期】 28～30回目	仕事をして行く中で マナー・ルールが相手の立場を考え仕事を円滑に運んだり、トラブルを未然に防いだりする事の必要性
【後期】 31～34回目	後期試験：自己アピール(プレゼン)と好感の持てる社会人とは レポート提出
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	会社のしくみを学び、仕事の基本を知ることはいくらから社会に出るみなさんにとって大きな自信につながります。「企業は人なり」と言われるように社員のちょっとした言葉や行動が会社の印象に関わるからこそビジネスマナーが大切です。あらゆるビジネスシーンで求められる接遇力をしっかり習得します。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響・録音技術史		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブッキングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。管理業務、店舗への音響設備などの業務も行なっている。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に精力的に活動中。				
授業概要					
音響・録音についての技術や機器、背景などの歴史を学習する。					
到達目標					
・録音史について基礎的な知識を得る。 ・技術の変遷を理解し、現代でも使われている技術や機器について理解を深める。 ・音とはなんなのかに注目し、歴史のなかでそれがどの様に捉えられてきたかを学ぶ。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	アナログとデジタルについて 蓄音機誕生について
【前期】 4～7回目	円盤式蓄音機について 電気録音とラジオについて
【前期】 8～10回目	LPとEP、ステレオについて アナログ・オーディオ全盛期について
【前期】 11～13回目	磁気録音の歴史 前期のおさらい、応用的な内容の学習
【前期】 14～17回目	■前期試験：筆記試験及び実技試験の実施
【後期】 18～20回目	前期のおさらい デジタル録音、CDIについて
【後期】 21～24回目	MDの誕生 DATの開発について
【後期】 25～27回目	DVDの誕生 ステレオからサラウンドへ
【後期】 28～30回目	SA-CD、DSDIについて デジタルオーディオがもたらしたもの
【後期】 31～34回目	■後期試験：筆記試験及び実技試験の実施
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	PAやレコーディング、ミキシングの職において重要な歴史の知識を身につけましょう。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	楽器知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修	
	学則別表上表記	舞台知識Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☒ 非該当 ☐
担当講師 実務経歴	自らのバンド経験を生かし、福岡を中心に楽器スタッフやイベントスタッフとして活躍。NUMBER SHOT・中洲ジャズ・Sunset Liveなどにもスタッフとして参加。 上記の経験を活かし楽器知識についての講義を行う。					
授業概要						
アコースティックギター、エレクトリックギター、エレクトリックベース、キーボードやドラムなど様々な楽器の歴史、構造、特徴や演奏方法などを学び、幅広い知識を身につける。また、会場の形や広さ、温度や湿度による音の違いになどについても分析する。						
到達目標						
・ポピュラー音楽で使用される楽器を中心に、様々な楽器についてその仕組みや奏法を学び、幅広い知識を身につける。 ・楽器について幅広く学ぶと同時に、それぞれの楽器の音が出る仕組みや奏法を覚え、簡単な演奏が出来る技術を習得する。 ・楽器の分類／それぞれの楽器の主なメーカーと種類／楽器の各部名称と様々なセッティングの知識を身に付ける。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	楽器の種類や分類法、音楽のジャンルによる編成等を学び、一般的によく演奏される楽器を知る。
【前期】 4～7回目	打楽器／ドラムセットの構造・各部名称について学び、標準的なセッティングの方法を知る。
【前期】 8～10回目	弦楽器／ギターの種類や構造・各部名称・奏法について学び、同時にアンプやエフェクターについての知識を深める。
【前期】 11～13回目	弦楽器／ベースの種類や構造・各部名称・奏法について学び、同時にアンプやエフェクターについての知識を深める。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期試験：各楽器の構造や各部名称等について、筆記試験で知識を問う。
【後期】 18～20回目	鍵盤楽器／アナログシンセサイザーの歴史や構造、発音の仕組み等を学ぶ。
【後期】 21～24回目	鍵盤楽器／デジタルシンセサイザーの歴史や構造、発音の仕組み等を学び、同時に他のデジタル楽器について知る。
【後期】 25～27回目	管楽器／木管楽器・金管楽器の種類、構造、特徴について学ぶ。
【後期】 28～30回目	民族楽器／打楽器をはじめ、弦楽器や管楽器のルーツについて考察し、知識を深める。
【後期】 31～34回目	■後期試験：前期と合わせて楽器の歴史や仕組み等について実技及び筆記試験で知識を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽業界に関わる人として、楽器全般を知ることとはとても重要なことのひとつです。授業を通してより多くの楽器について学びましょう。また新しい音楽と共に、日々進化を続け、新製品が開発される楽器の世界です。常に新しい情報を入手する姿勢も大切です。
備考	必要に応じて講師作成のテキスト配布やデータの共有を行います。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識Ⅱ-PA		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	PC知識Ⅱ	年次	2年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA専攻						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	専門学校卒業後、音響、楽器リペア専門会社に入社、その後独立。個人機材を所有しライブ、イベント等の仮設音響業務、ライブハウスの音響管理、アーティストに帯同し乗り込みオペレーター業務、楽器メンテナンス、レコーディング業務に携わる。						
授業概要							
・PA業務に関するPCを活用した技術を学ぶ。							
到達目標							
・DAWソフトを理解しRec、Mix、編集を行うことができる。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	DAWソフトの内部を理解する。PAとRECの違いを理解する。チャンネルの構成、ルーティング、出力をできるようになる。
【前期】 4～7回目	音源を指定された長さに編集する、短くする、長くする、複数トラックを1つの曲として書き出すことができる。
【前期】 8～10回目	音源素材を使用して、DAW内のプラグインエフェクトを使用し、プラグインエフェクト種類、効果を理解し簡易的なミックスを行う。
【前期】 11～13回目	DAWを音源叩きとして使用するためのルーティング、編集する。実際に声を収録し、波形編集、Mixを行う。
【前期】 14～17回目	■前期試験:ラジオ公開収録音源を使用して、不必要な波形の処理、マイクの音声のMix、複数トラックを2Mixに書き出し納品音源化する。
【後期】 18～20回目	様々な種類のオーディオインターフェースの違いを学ぶ。Dante Virtual Soundcardの使用方法を学ぶ。
【後期】 21～24回目	Dante Virtual Soundcardの使用方法を学ぶ。LiveRecされた音源とStudioRecされた音源の違いを理解し、それぞれのMixのアプローチを考える。
【後期】 25～27回目	YAMAHAのミキサーでDante Virtual Soundcardを使用しバンドのマルチRecを行う、その音源をDAW上で編集Mix作業をする。
【後期】 28～30回目	YAMAHAのミキサーでDante Virtual Soundcardを使用しバンドのマルチRecを行う、その音源をDAW上で編集Mix作業をする。
【後期】 36～37回目	■後期試験:実際に収録した音源を編集Mixしたものを納品音源化する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現代PAを行う中でPCを駆使できることは仕事を大きく助けてくれます。最低限の知識でも、動画の音声処理等の他業種に派生したりも出来ます。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択	
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☒ 非該当 ☐
担当講師 実務経歴	音響業務:ブライダル音響・学園祭音響・地域のお祭りやイベントでの音響・式典の音響・格闘技大会での音響 その他:イベントの企画運営・演者のブッキング・子供向けギター教室開催・音楽理論・作曲					
授業概要						
①音響に関する専門用語をはじめ、舞台の構造、音の性質や特性などの音に関する応用知識を学ぶ。 ②スピーカー、パワーアンプやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につける。						
到達目標						
・音響に対する幅広い知識を身につけ、実務での予期せぬ自体にでも活かせる用に理解度を深める。 ・音響の基礎から応用までを学習し、実作業の中で実際に活かせる知識を身につける。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音響に関する電気知識・電気抵抗について。
【前期】 4～7回目	空間系・ダイナミクス系エフェクターについて。
【前期】 8～10回目	スピーカーの仕組みと構造について。
【前期】 11～13回目	デシベルや音圧について。
【前期】 14～17回目	■前期試験:前期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
【後期】 18～20回目	1年次から2年次前期までの復習と補足
【後期】 21～24回目	デジタル技術・機器間の同期について。
【後期】 25～27回目	最新のPA・レコーディングシステムについて①
【後期】 28～30回目	最新のPA・レコーディングシステムについて②
【後期】 31～34回目	■後期試験:後期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現場では、知識だけでなく経験がとても重要になります。 授業では、実際の現場で私が経験したことや役立つ考え方をリアルに伝えていきたいと思います。 一緒に成長していきましょう。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドアナライズⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA専攻					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブックイングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。管理業務、店舗への音響設備などの業務も行なっている。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に精力的に活動中。					
授業概要						
チェストボイス、ミックスボイス、ヘッドボイスやファルセットなどの歌声、アコースティックギター、エレクトリックギター、ベース、ドラム及びキーボードなど様々な「音」を分析し、それぞれの性質及び特徴を理解するとともに音響エンジニアとして必要な応用知識を身につける。						
到達目標						
・楽器の特性を理解し、シチュエーションによって使い分けられる音の違いを分析する。 ・DAWソフトを使用して、視覚的、聴覚的に理解度を深める。 ・それぞれの音の性質や特徴を理解することができる。 ・ジャンルやシチュエーションによって使い分けられる音のEQ処理技術を身につけることができる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	授業概要と年間スケジュールの説明。歌声に関する分析、解説。
【前期】 4～7回目	アコースティックギターに関する音の分析、解説。
【前期】 8～10回目	エレクトリックギターに関する音の分析、解説。
【前期】 11～13回目	ベースギターに関する音の分析、解説。
【前期】 14～17回目	■前期試験：筆記試験及び実技試験の実施。
【後期】 18～20回目	ドラムに関する音の分析、解説①
【後期】 21～24回目	ドラムに関する音の分析、解説②
【後期】 25～27回目	鍵盤楽器に関する音の分析、解説。
【後期】 28～30回目	その他の楽器に関する音の解説。
【後期】 31～34回目	■後期試験：筆記試験及び実技試験の実施。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歌声や楽器の特性を理解することで、シチュエーションに適した音作りをすることができます。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響システムⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	イクイップメントⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA専攻				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスからPAを始めその後、福岡の音響会社に20年在籍後フリーとなり、ライブでのPAや芝居、スポーツ系など幅広い現場でオペレート活動をしている。				
授業概要					
デジタル機器の構築をより深く理解する事と様々なシステムやチューニング、セッティングについて学ぶ。またパソコンを使って音作りを行う。					
到達目標					
デジタルミキサーやデジタルワイヤレスマイクのより実践に使えるセッティングや調整の修得とsmaartを使つてのチューニングを身につける。 音出しソフトとして幅広く使われている ableton liveの活用方法を習得する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	デジタルミキサーでの様々なシステムの構築。
【前期】 4～7回目	デジタルミキサーのプラグイン等の使い方について。
【前期】 8～10回目	ワイヤレスマイクの理解とセッティングについて。
【前期】 11～13回目	デジタルミキサーとワイヤレスマイクの設定やシステムの構築。
【前期】 14～17回目	■前期試験:前期の授業内容から抜粋して実技試験を実施。
【後期】 18～20回目	ableton liveの基礎編。操作方法について。
【後期】 21～24回目	ableton liveの応用編。サンプル楽曲を用いて編集方法について学ぶ。
【後期】 25～27回目	smaart での基礎チューニング。操作方法とシステムについて。
【後期】 28～30回目	smaart での応用チューニング。タイムアライメントなど現場での活用方法について。
【後期】 31～34回目	■後期試験:1年を通しての復習と後期授業内容から抜粋して実技試験を実施。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	少し視点が変わった所での授業内容になりますが実践では必ず力となる各システムとなります。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク基礎Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択		
	学則別表上表記	スタッフワーク基礎Ⅱ	年次	2年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA専攻						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	福岡の音響会社に在籍の後、現在はフリーランスとして九州を中心に大型音楽フェスやアーティストのコンサートにPAスタッフとして従事。 上記の経験を活かしPAにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。						
授業概要							
①音響、照明、ローディー、イベント制作のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、ステージセッティング、楽器調整、サウンドチェック、リハーサル、本番や撤収などのスタッフとして必要な実技能力を養う。 ②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。							
到達目標							
・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。 ・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	前期授業における内容について、アーティストスタッフコースを中心に企画会議を行い、PAとしてどのように対応するか、どのような事が出来るか考え、提案する。
【前期】 4～7回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通してPAの役割を学ぶ。
【前期】 8～10回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)他学科との合同授業における仕込み・リハーサル・本番・バラシ。
【前期】 11～13回目	前期LIVE WEEKにおける必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシ。
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	後期授業における内容について、アーティストスタッフコースを中心に企画会議を行い、それぞれの企画に対し、PAとしてどのように対応するか、どのような事が出来るか考え、提案する。
【後期】 21～24回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通してPAの役割を学ぶ。
【後期】 25～27回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)他学科との合同授業における仕込み・リハーサル・本番・バラシ。
【後期】 28～30回目	後期LIVE WEEKにおける必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシ。
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解/コミュニケーション」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他セクションのスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、楽器調整や撤収などの音楽スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク応用Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択		
	学則別表上表記	スタッフワーク応用Ⅱ	年次	2年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■ 音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA専攻						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	福岡の音響会社に在籍の後、現在はフリーランスとして九州を中心に大型音楽フェスやアーティストのコンサートにPAスタッフとして従事。 上記の経験を活かしPAにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。						
授業概要							
①音響、照明、ローディー、イベント制作のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、ステージセッティング、楽器調整、サウンドチェック、リハーサル、本番や撤収などのスタッフとして必要な実技能力を養う。 ②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。							
到達目標							
・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。 ・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	前期授業における内容について、アーティストスタッフコースを中心に企画会議を行い、PAとしてどのように対応するか、どのような事が出来るか考え、提案する。
【前期】 4～7回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通してPAの役割を学ぶ。
【前期】 8～10回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)他学科との合同授業における仕込み・リハーサル・本番・バラシ。
【前期】 11～13回目	前期LIVE WEEKにおける必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシ。
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	後期授業における内容について、アーティストスタッフ制作コースを中心に企画会議を行い、それぞれの企画に対し、PAとしてどのように対応するか、どのような事が出来るか考え、提案する。
【後期】 21～24回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通してPAの役割を学ぶ。
【後期】 25～27回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)他学科との合同授業における仕込み・リハーサル・本番・バラシ。
【後期】 28～30回目	後期LIVE WEEKにおける必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシ。
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解/コミュニケーション」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他セクションのスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、楽器調整や撤収などの音楽スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。 スタッフワーク基礎で学んだ内容をもとに2コマ目として実施。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート基礎Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	PA基礎Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA専攻					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	福岡の音響会社に在籍の後、現在はフリーランスとして九州を中心に大型音楽フェスやアーティストのコンサートにPAスタッフとして従事。 上記の経験を活かしPAオペレーションを中心とした実技指導を行う。					
授業概要						
①ライブホールEMYに於けるデジタル音響システムの理解と適切な使用方法を学び、その時々に応じたセッティングを実践する。 ②デジタルミキサー(YAMAHA CL5・DiGiCo Quantum7)の使い方・ラインアレイスピーカー(VTX V20 S25)・モニタースピーカー(STX812・VTX M20)の特性を学び、ライブホールでの音作り・チューニングを理解します。その他、様々なマイクロフォンを使用し各特性を学んでいく。						
到達目標						
・デジタルミキサー(DiGiCo Quantum7・YAMAHA CL5)を使用するハウスイオペレート・モニターオペレートができるよう、各ミキサーの特徴・セットアップ方法の違い、ステージボックス(SD RACK・Rio)のセッティングが出来るよう学んでいく。 ・ラインアレイスピーカー・2-wayステージモニターの特徴を理解し、各スピーカーに対応したセットアップ・チューニングができるように学ぶ。 ・実際のアーティストを交えてのFOH ConsoleをCL5・Monitor ConsoleをQL1(序盤)→FOH ConsoleをQuantum7・Monitor ConsoleをCL5(中盤～終盤)にて実習を行い、仕込み・チューニング・音作りの基礎を習得する。 ・各々がどのポジションに就いても適切な対応、指示が出来るよう色々なシチュエーションを想定・実施し対応力をつける。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ライブホールの音響システムの電源の入れ方・順番。 FOH・Monitorの分岐の説明/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。
【前期】 4～7回目	チーム分け/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。 iPadを使った回線チェック・チューニング/アーティストを入れての実習①
【前期】 8～10回目	FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング/アーティストを入れての実習②
【前期】 11～13回目	Quantum7のインプットパッチ・アウトプットパッチ・HA・AUXの説明。
【前期】 14～17回目	■前期試験:FOH Console CL5・Monitor Console QL1を使用するのセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
【後期】 18～20回目	Quantum7のセッションストラクチャー・Snapshot・GEQインサート。
【後期】 21～24回目	Quantum7のfxインサート・マトリクス送り・Comp・Gateの説明。
【後期】 25～27回目	FOH Console Quantum7・Monitor Console CL5での仕込み～セッティング～チューニング/アーティストを入れての実習①～②
【後期】 28～30回目	Quantum7のPinknoise・REC送りの説明。 チームを分けてのセッティング。
【後期】 31～34回目	■後期試験:FOH Console Quantum7・Monitor Console CL5を使用するのセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アナログミキサーからデジタルミキサーへの移行による、1年生で学んだ事の応用が増えてきます。便利さもあり難しさもありますが、新しく触れる機材と楽しく学び、様々なミキサーを使用するのハウスイオペレーション・モニターオペレーション及び各ステージでの的確なセッティングを目指します。
備考	適時プリント資料配布

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート応用Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択		
	学則別表上表記	PA応用Ⅱ	年次	2年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA専攻						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	福岡の音響会社に在籍の後、現在はフリーランスとして九州を中心に大型音楽フェスやアーティストのコンサートにPAスタッフとして従事。 上記の経験を活かしPAオペレーションを中心とした実技指導を行う。						
授業概要							
①ライブホールEMYに於けるデジタル音響システムの理解と適切な使用方法を学び、その時々に応じたセッティングを実践する。 ②デジタルミキサー(YAMAHA CL5・DiGiCo Quantum7)の使い方・ラインアレイスピーカー(VTX V20 S25)・モニタースピーカー(STX812・VTX M20)の特性を学び、ライブホールでの音作り・チューニングを理解します。その他、様々なマイクロフォンを使用し各特性を学んでいく。							
到達目標							
・デジタルミキサー(DiGiCo Quantum7・YAMAHA CL5)を使用するのハウスイオペレート・モニターオペレートができるよう、各ミキサーの特徴・セットアップ方法の違い、ステージボックス(SD RACK・Rio)のセッティングが出来るよう学んでいく。							
・ラインアレイスピーカー・2-wayステージモニターの特徴を理解し、各スピーカーに対応したセットアップ・チューニングができるように学ぶ。							
・実際のアーティストを交えてのFOH ConsoleをCL5・Monitor ConsoleをQL1(序盤)→FOH ConsoleをQuantum7・Monitor ConsoleをCL5(中盤～終盤)にて実習を行い、仕込み・チューニング・音作りの基礎を習得する。							
・各々がどのポジションに就いても適切な対応、指示が出来るよう色々なシチュエーションを想定・実施し対応力をつける。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ライブホールの音響システムの電源の入れ方・順番。 FOH・Monitorの分岐の説明/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。
【前期】 4～7回目	チーム分け/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。 iPadを使った回線チェック・チューニング/アーティストを入れての実習①
【前期】 8～10回目	FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング/アーティストを入れての実習②
【前期】 11～13回目	Quantum7のインプットパッチ・アウトプットパッチ・HA・AUXの説明。
【前期】 14～17回目	■前期試験:FOH Console CL5・Monitor Console QL1を使用するのセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
【後期】 18～20回目	Quantum7のセッションストラクチャー・Snapshot・GEQインサート。
【後期】 21～24回目	Quantum7のfxインサート・マトリクス送り・Comp・Gateの説明。
【後期】 25～27回目	FOH Console Quantum7・Monitor Console CL5での仕込み～セッティング～チューニング/アーティストを入れての実習①～②
【後期】 28～30回目	Quantum7のPinknoise・REC送りの説明。 チームを分けてのセッティング。
【後期】 31～34回目	■後期試験:FOH Console Quantum7・Monitor Console CL5を使用するのセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アナログミキサーからデジタルミキサーへの移行による、1年生で学んだ事の応用が増えてきます。便利さもあり難しさもありますが、新しく触れる機材と楽しく学び、様々なミキサーを使用するのハウスイオペレーション・モニターオペレーション及び各ステージでの的確なセッティングを目指します。
備考	適時プリント資料配布。 PA基礎Ⅱで学んだ内容をもとに2コマ目として実施。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅡ		授業形態 / 必選	講義	必修	
	学則別表上表記	業界知識Ⅱ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ☐	非該当 ☒	
担当講師 実務経歴						
授業概要						
著作物の定義や著作権者の権利及び著作隣接権について学び、それぞれの権利がどのような働きをしているのかを理解することが出来る。						
到達目標						
音楽ビジネスの仕組みを知り、著作権にまつわる企業や団体がどのような役割を果たしているかを理解し、印税の仕組みや金額、著作権保護の条件や重要性についての理解を深める。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	形のない知的財産について理解し、著作権を守る意義について理解する。 著作物の定義と著作物の種類を理解する 著作権者の権利の内容を理解する 著作権者の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ①
【前期】 4～7回目	著作権者の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ② 著作隣接権の内容について理解する ① 著作隣接権の内容について理解する ② 音源の権利 原盤について理解する
【前期】 8～10回目	DVD視聴NHKスペシャル「知は誰のものか」インターネットにおける違法コピーと著作権の保護期間延長について 前回のDVDからの問題点のまとめ 著作権保護期間延長に関する作文 【作文提出】 音楽業界の基本構造① プロダクションの役割を理解する
【前期】 11～13回目	音楽業界の基本構造② レコード会社の役割を理解する 音楽業界の基本構造③ 音楽出版社の役割を理解する～著作権ビジネスの流れを理解する 音楽ビジネスの現状
【前期】 14～18回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 前期テスト実施 前期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
【後期】 19～21回目	JASRACの役割について理解を深める 著作権管理事業の現状 JASRACの使用料徴収の是非について自分の意見をまとめ 【作文作成&提出】
【後期】 22～25回目	印税の仕組みがどのようにになっているか理解出来るようになる レーベルの収益について理解することができる。 リクーブラインについて理解することができる。 CD以外の著作権使用料① インタラクティブ配信
【後期】 26～28回目	CD以外の著作権使用料② 動画投稿サイト CD以外の著作権使用料③ 放送～カラオケ CD以外の著作権使用料④ 演奏/上演とレンタル 私的録音補償金
【後期】 29～31回目	著作物の利用に関して 著作物の利用手続きと所有権と著作権の違いを理解する 著作物の自由利用の範囲について理解を深める 著作権侵害の行為と罰則について理解を深める
【後期】 32～36回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 後期テスト実施 後期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	前期では著作権の基本的な知識と音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割について学びます。 後期では主にJASRACの役割と印税について学びます。JASRACに関しては、インターネット上で不確かな情報が飛び交っているのが現状ですが、自身で正しい判断が出来るような知識を身につけてください。仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	ホームルームも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

音楽芸能スタッフ科 P A/音響コース 2年次 受講科目一覧

P A&レコーディング専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 4 5 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅱ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅱ（後期）	34	2	1
講義	一般教養Ⅱ	68	2	4
講義	音楽史Ⅱ	68	2	4
講義	舞台知識Ⅱ	68	2	4
講義	P C 知識Ⅱ	68	2	4
講義	コンサートスタッフ知識Ⅱ	68	2	4
実習	P A 基礎Ⅱ	68	2	2
実習	P A 応用Ⅱ	68	2	2
実習	P r o T o o l s 基礎Ⅱ	68	2	2
実習	P r o T o o l s 応用Ⅱ	68	2	2
演習	レコーディング基礎Ⅱ	68	2	4
演習	レコーディング応用Ⅱ	68	2	4
講義	業界知識Ⅱ	72	2	4
合計		888	26	42

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	一般教養Ⅱ	年次	2年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☐	非該当 ☒
担当講師 実務経歴							

授業概要
①学生と社会人の違いを知り、社会人として必要なビジネスの基礎を中心にコミュニケーション力、ビジネスマナー、日本のしきたりを学ぶ。 ②具体的にはビジネスマナーの基本である第一印象、あいさつ、みだしなみ、態度、ことばづかい、話し方・聞き方、ビジネス文書、来客対応、仕事の進め方、食事のマナー、日本のしきたりまで学習する。 ③就職活動に必要な、自己PR作成や立ち居振舞いを実践し面接試験をクリアできる基本を学ぶ。
到達目標
・就職後に役立つビジネスマナーや社会人として求められる能力を習得することにより、社会人になるにあたっての意識の向上と基本的な心構えをもつことができ、組織にとって必要な人材になることができるようになる。 ・対人関係においてコミュニケーションを向上し、円滑な人間関係を築くための基礎を身につけることができる。 ・ビジネスマナーと接遇の基本の考え方を理解し、体得することによって実務能力を実践的に使えるようになる。就職活動方法及び面接・筆記試験対策を実践形式で行い、就職内定を最終目標とする。

対策	
【前期】 1～3回目	自己紹介:対策と解説
【前期】 4～7回目	マナー基本編の復習と応用編(ステップupマナー)
【前期】 8～10回目	マナーの実技編とアドバイス
【前期】 11～13回目	コミュニケーションの復習(話し方・聞き方・表情・態度)・実技編
【前期】 14～17回目	前期試験:マナー・コミュニケーションのレポート提出と実技の実施
【後期】 18～20回目	就活の為のマナー編(面接時における対応・入室・座・退室)
【後期】 21～24回目	質問に対する返答への対策
【後期】 25～27回目	社会人としての仕事への取り組み方
【後期】 28～30回目	仕事をして行く中で マナー・ルールが相手の立場を考え仕事を円滑に運んだり、トラブルを未然に防いだりする事の必要性
【後期】 31～34回目	後期試験:自己アピール(プレゼン)と好感の持てる社会人とは レポート提出
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	会社のしくみを学び、仕事の基本を知ることとはこれから社会に出るみなさんにとって大きな自信につながります。「企業は人なり」と言われるように社員のちょっとした言葉や行動が会社の印象に関わるからこそビジネスマナーが大切です。あらゆるビジネスシーンで求められる接遇力をしっかり習得します。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響・録音技術史		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブッキングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。管理業務、店舗への音響設備などの業務も行なっている。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に精力的に活動中。				
授業概要					
音響・録音についての技術や機器、背景などの歴史を学習する。					
到達目標					
・録音史について基礎的な知識を得る。 ・技術の変遷を理解し、現代でも使われている技術や機器について理解を深める。 ・音とはなんなのかに注目し、歴史のなかでそれがどの様に捉えられてきたかを学ぶ。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	アナログとデジタルについて 蓄音機誕生について
【前期】 4～7回目	円盤式蓄音機について 電気録音とラジオについて
【前期】 8～10回目	LPとEP、ステレオについて アナログ・オーディオ全盛期について
【前期】 11～13回目	磁気録音の歴史 前期のおさらい、応用的な内容の学習
【前期】 14～17回目	■前期試験：筆記試験及び実技試験の実施
【後期】 18～20回目	前期のおさらい デジタル録音、CDについて
【後期】 21～24回目	MDの誕生 DATの開発について
【後期】 25～27回目	DVDの誕生 ステレオからサラウンドへ
【後期】 28～30回目	SA-CD、DSDについて デジタルオーディオがもたらしたもの
【後期】 31～34回目	■後期試験：筆記試験及び実技試験の実施
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	PAやレコーディング、ミキシングの職において重要な歴史の知識を身につけましょう。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	楽器知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	舞台知識Ⅱ	年次	2年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	自らのバンド経験を生かし、福岡を中心に楽器スタッフやイベントスタッフとして活躍。NUMBER SHOT・中洲ジャズ・Sunset Liveなどにもスタッフとして参加。 上記の経験を活かし楽器知識についての講義を行う。						
授業概要							
アコースティックギター、エレクトリックギター、エレクトリックベース、キーボードやドラムなど様々な楽器の歴史、構造、特徴や演奏方法などを学び、幅広い知識を身につける。また、会場の形や広さ、温度や湿度による音の違いになどについても分析する。							
到達目標							
・ポピュラー音楽で使用される楽器を中心に、様々な楽器についてその仕組みや奏法を学び、幅広い知識を身につける。							
・楽器について幅広く学ぶと同時に、それぞれの楽器の音が出る仕組みや奏法を覚え、簡単な演奏が出来る技術を習得する。							
・楽器の分類／それぞれの楽器の主なメーカーと種類／楽器の各部名称と様々なセッティングの知識を身に付ける。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	楽器の種類や分類法、音楽のジャンルによる編成等を学び、一般的によく演奏される楽器を知る。
【前期】 4～7回目	打楽器／ドラムセットの構造・各部名称について学び、標準的なセッティングの方法を知る。
【前期】 8～10回目	弦楽器／ギターの種類や構造・各部名称・奏法について学び、同時にアンプやエフェクターについての知識を深める。
【前期】 11～13回目	弦楽器／ベースの種類や構造・各部名称・奏法について学び、同時にアンプやエフェクターについての知識を深める。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期試験：各楽器の構造や各部名称等について、筆記試験で知識を問う。
【後期】 18～20回目	鍵盤楽器／アナログシンセサイザーの歴史や構造、発音の仕組み等を学ぶ。
【後期】 21～24回目	鍵盤楽器／デジタルシンセサイザーの歴史や構造、発音の仕組み等を学び、同時に他のデジタル楽器について知る。
【後期】 25～27回目	管楽器／木管楽器・金管楽器の種類、構造、特徴について学ぶ。
【後期】 28～30回目	民族楽器／打楽器をはじめ、弦楽器や管楽器のルーツについて考察し、知識を深める。
【後期】 31～34回目	■後期試験：前期と合わせて楽器の歴史や仕組み等について実技及び筆記試験で知識を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽業界に関わる人として、楽器全般を知ることとはとても重要なことのひとつです。授業を通してより多くの楽器について学びましょう。また新しい音楽と共に、日々進化を続け、新製品が開発される楽器の世界です。常に新しい情報を入手する姿勢も大切です。
備考	必要に応じて講師作成のテキスト配布やデータの共有を行います。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW&TheoryⅡ-β		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA&レコーディング専攻				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	音楽学校卒業後、2015年よりフリーで作詞作曲をすると同時に、DAW講師として活動。 アイドルグループへの楽曲提供及び編曲を多数行うとともに、レコーディングディレクターとしても活躍。現在に至る。				
授業概要					
オリジナル楽曲の制作や打ち込みなどの制作過程を学び、音楽理論についての知識を習得する。					
到達目標					
・DAWソフト(Logic)を使用し、楽曲制作並びに編集作業の基礎技術を身に着ける。 ・動画編集ソフト(Adobe premiere Pro)を使用し、動画制作並びに編集作業の基礎技術を身に着ける。 ・特定のシーンやプロダクトに合わせたサウンドデザインができるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	DAWソフト(Logic)の操作方法について。
【前期】 4～7回目	ダイアトニックコード・スケール(メジャー・マイナー)について。 サンプル映像に合わせた簡単なサウンドメイク。
【前期】 8～10回目	既存楽曲のアナライズ・解説。
【前期】 11～13回目	loop等を使用して簡単な楽曲制作。
【前期】 14～17回目	■前期試験：講師が用意したサンプル楽曲のコピー。DAW操作技術の定着度を問う。
【後期】 18～20回目	音楽理論について。コード進行の作り方。 モーダルインターチェンジ・セカンダリドミナントの解説。
【後期】 21～24回目	課題映像に合わせた作曲。 簡単なミックス、バウンス。
【後期】 25～27回目	楽曲制作：自由課題①
【後期】 28～30回目	楽曲制作：自由課題②
【後期】 31～34回目	■後期試験：オリジナル楽曲制作。(ループ/バック機能を用いても可)
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Mac PC及びDAWソフトを使用し、楽曲制作がどのようにされているのか学びます。 オーディオインターフェイスやその他周辺機器の知識やDAWオペレート技術を習得し、DAWソフトを自在に操作できるようになりましょう。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択		
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識Ⅱ	年次	2年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	音響業務:ブライダル音響・学園祭音響・地域のお祭りやイベントでの音響・式典の音響・格闘技大会での音響 その他:イベントの企画運営・演者のブッキング・子供向けギター教室開催・音楽理論・作曲						
授業概要							
①音響に関する専門用語をはじめ、舞台の構造、音の性質や特性などの音に関する応用知識を学ぶ。 ②スピーカー、パワーアンプやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につける。							
到達目標							
・音響に対する幅広い知識を身につけ、実務での予期せぬ自体にでも活かせる用に理解度を深める。 ・音響の基礎から応用までを学習し、実作業の中で実際に活かせる知識を身につける。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音響に関する電気知識・電気抵抗について。
【前期】 4～7回目	空間系・ダイナミクス系エフェクターについて。
【前期】 8～10回目	スピーカーの仕組みと構造について。
【前期】 11～13回目	デシベルや音圧について。
【前期】 14～17回目	■前期試験:前期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
【後期】 18～20回目	1年次から2年次前期までの復習と補足
【後期】 21～24回目	デジタル技術・機器間の同期について。
【後期】 25～27回目	最新のPA・レコーディングシステムについて①
【後期】 28～30回目	最新のPA・レコーディングシステムについて②
【後期】 31～34回目	■後期試験:後期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現場では、知識だけでなく経験がとても重要になります。 授業では、実際の現場で私が経験したことや役立つ考え方をリアルに伝えていきたいと思います。 一緒に成長していきましょう。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート基礎Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択		
	学則別表上表記	PA基礎Ⅱ	年次	2年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ステージ総合/PA音響 PA&レコーディング専攻						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいてエンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディング、PAオペレート業務に従事。楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。						
授業概要							
①ライブホールEMYに於けるデジタル音響システムの理解と適切な使用方法を学び、その時々に応じたセッティングを実践する。 ②デジタルミキサー(YAMAHA CL5・DiGiCo Quantum7)の使い方・ラインアレイスピーカー(VTX V20 S25)・モニタースピーカー(STX812・VTX M20)の特性を学び、ライブホールでの音作り・チューニングを理解する。その他、様々なマイクロフォンを使用し各特性を学んでいく。							
到達目標							
・デジタルミキサー(DiGiCo Quantum7・YAMAHA CL5)を使用するのハウスオペレート・モニターオペレートができるよう、各ミキサーの特徴・セットアップ方法の違い、ステージボックス(SD RACK・Rio)のセッティングが出来るよう学んでいく。 ・ラインアレイスピーカー・2-wayステージモニターの特徴を理解し、各スピーカーに対応したセットアップ・チューニングができるように学ぶ。 ・実際のアーティストを交えてのFOH ConsoleをCL5・Monitor ConsoleをQL1(序盤)→FOH ConsoleをQuantum7・Monitor ConsoleをCL5(中盤～終盤)にて実習を行い、仕込み・チューニング・音作りの基礎を習得する。 ・各々がどのポジションに就いても適切な対応、指示が出来るよう色々なシチュエーションを想定・実施し対応力をつける。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ライブホールの音響システムの電源の入れ方・順番。 FOH・Monitorの分岐の説明/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。
【前期】 4～7回目	チーム分け/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。 iPadを使った回線チェック・チューニング/アーティストを入れての実習①
【前期】 8～10回目	FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング/アーティストを入れての実習②
【前期】 11～13回目	SD7のインプットパッチ・アウトプットパッチ・HA・AUXの説明。
【前期】 14～17回目	■前期試験:FOH Console CL5・Monitor Console QL1を使用するのセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
【後期】 18～20回目	Quantum7のセッションストラクチャー・Snapshot・GEQインサート。
【後期】 21～24回目	Quantum7のfxインサート・マトリクス送り・Comp・Gateの説明。
【後期】 25～27回目	FOH Console Quantum7・Monitor Console CL5での仕込み～セッティング～チューニング/アーティストを入れての実習①～②
【後期】 28～30回目	Quantum7のPinknoise・REC送りの説明。 チームを分けてのセッティング。
【後期】 31～34回目	■後期試験:FOH Console Quantum7・Monitor Console CL5を使用するのセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アナログミキサーからデジタルミキサーへの移行による、1年生で学んだ事の応用が増えてきます。便利さもあり難しさもありますが、新しく触れる機材と楽しく学び、様々なミキサーを使用するのハウスオペレーション・モニターオペレーション及び各ステージでの的確なセッティングを目指します。
備考	適時プリント資料配布

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート応用Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	PA応用Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ステージ総合/PA音響 PA&レコーディング専攻					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいてエンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディング、PAオペレート業務に従事。楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。					
授業概要						
①ライブホールEMYに於けるデジタル音響システムの理解と適切な使用方法を学び、その時々に応じたセッティングを実践する。 ②デジタルミキサー(YAMAHA CL5・DiGiCo Quantum7)の使い方・ラインアレイスピーカー(VTX V20 S25)・モニタースピーカー(STX812・VTX M20)の特性を学び、ライブホールでの音作り・チューニングを理解する。その他、様々なマイクロフォンを使用し各特性を学んでいく。						
到達目標						
・デジタルミキサー(DiGiCo Quantum7・YAMAHA CL5)を使用するのハウスオペレート・モニターオペレートができるよう、各ミキサーの特徴・セットアップ方法の違い、ステージボックス(SD RACK・Rio)のセッティングが出来るよう学んでいく。 ・ラインアレイスピーカー・2-wayステージモニターの特徴を理解し、各スピーカーに対応したセットアップ・チューニングができるように学ぶ。 ・実際のアーティストを交えてのFOH ConsoleをCL5・Monitor ConsoleをQL1(序盤)→FOH ConsoleをQuantum7・Monitor ConsoleをCL5(中盤～終盤)にて実習を行い、仕込み・チューニング・音作りの基礎を習得する。 ・各々がどのポジションに就いても適切な対応、指示が出来るよう色々なシチュエーションを想定・実施し対応力をつける。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ライブホールの音響システムの電源の入れ方・順番。 FOH・Monitorの分岐の説明/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。
【前期】 4～7回目	チーム分け/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。 iPadを使った回線チェック・チューニング/アーティストを入れての実習①
【前期】 8～10回目	FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング/アーティストを入れての実習②
【前期】 11～13回目	Quantum7のインプットパッチ・アウトプットパッチ・HA・AUXの説明。
【前期】 14～17回目	■前期試験:FOH Console CL5・Monitor Console QL1を使用するのセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
【後期】 18～20回目	Quantum7のセッションストラクチャー・Snapshot・GEQインサート。
【後期】 21～24回目	Quantum7のfxインサート・マトリクス送り・Comp・Gateの説明。
【後期】 25～27回目	FOH Console Quantum7・Monitor Console CL5での仕込み～セッティング～チューニング/アーティストを入れての実習①～②
【後期】 28～30回目	Quantum7のPinknoise・REC送りの説明。 チームを分けてのセッティング。
【後期】 31～34回目	■後期試験:FOH Console Quantum7・Monitor Console CL5を使用するのセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アナログミキサーからデジタルミキサーへの移行による、1年生で学んだ事の応用が増えてきます。便利さもあり難しさもありますが、新しく触れる機材と楽しく学び、様々なミキサーを使用するのハウスオペレーション・モニターオペレーション及び各ステージでの的確なセッティングを目指します。
備考	適時プリント資料配布 PA基礎Ⅱの内容を基に2コマ目として実施。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ProTools基礎Ⅱ-β		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	ProTools基礎Ⅱ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA&レコーディング専攻					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。					
授業概要						
一年次で習得したPro toolsの基礎的な知識・操作への理解をより深め、ブロックオリティの作品が仕上がるまでの一連の流れを実践する。						
到達目標						
・Pro Toolsの機能についての理解をさらに深める。						
・実際の現場で求められる水準のPro Tools操作技術を身に着ける。						
・エディット、ミキシングにおける基礎的な技術を身につけ、実践できるようになる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Pro ToolsおよびMacの基本操作の学習
【前期】 4～7回目	レコーディング後のPro Toolsセッションデータの整理、管理の学習 エディット、ミキシング作業の学習
【前期】 8～10回目	実際の素材を使ったPro Toolsセッションデータの整理、管理 エディット、ミキシング作業の実践
【前期】 11～13回目	エディット、ミキシング作業の実践 エディットからミックスダウンまでの実践
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験の実施
【後期】 18～20回目	エディット、ミキシング作業の実践①【映像作品】 エディットテクニック、プラグインについての学習
【後期】 21～24回目	エディット、ミキシング作業の実践②【映像作品】 ミキシングテクニック、プラグインについての学習
【後期】 25～27回目	エディット、ミキシング作業の実践③【バンド】 ミキシングテクニック、プラグインについての学習
【後期】 28～30回目	エディット、ミキシング作業の実践④【バンド】 エディットからミックスダウンまでの実践
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験の実施
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Pro ToolsならびにMacについての基礎的な学習を行います。実際のワークフローを想定しつつ、わからないことがあれば解消していきましょう。何かあれば、すぐに質問してください。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ProTools応用Ⅱ-β		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	ProTools応用Ⅱ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA&レコーディング専攻					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動が続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。					
授業概要						
「Pro tools基礎Ⅱ」の内容からさらに多くの知識・操作を身につける。 応用的な知識、テクニックについて理解し、身につける。						
到達目標						
・Pro Toolsを使った作業についてより効率的なアイデアを得る。 ・Pro Tools と連携させたピッチ修正やノイズ除去アプリケーションの操作技術を習得する。 ・エディット、ミキシングにおける応用的なテクニックを身につけ、実践できるようになる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Pro ToolsおよびMacの基本操作の学習
【前期】 4～7回目	レコーディング後のPro Toolsセッションデータの整理、管理の学習 エディット、ミキシング作業の学習
【前期】 8～10回目	実際の素材を使ったPro Toolsセッションデータの整理、管理 エディット、ミキシング作業の実践
【前期】 11～13回目	エディット、ミキシング作業の実践 エディットからミックスダウンまでの実践
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験の実施
【後期】 18～20回目	エディット、ミキシング作業の実践①【映像作品】 エディットテクニック、プラグインについての学習
【後期】 21～24回目	エディット、ミキシング作業の実践②【映像作品】 ミキシングテクニック、プラグインについての学習
【後期】 25～27回目	エディット、ミキシング作業の実践③【バンド】 ミキシングテクニック、プラグインについての学習
【後期】 28～30回目	エディット、ミキシング作業の実践④【バンド】 エディットからミックスダウンまでの実践
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験の実施
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Pro ToolsならびにMacについての応用的な学習を行います。実際のワークフローを想定しつつ、わからないことがあれば解消していきましょう。何かあれば、すぐに質問してください。
備考	ProTools基礎Ⅱの内容を基に2コマ目として実施。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオ実習基礎Ⅱ-β		授業形態 / 必選	演習	選択		
	学則別表上表記	レコーディング基礎Ⅱ	年次	2年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA&レコーディング専攻						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいてエンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。						
授業概要							
①レコーディングスタジオを使用して、マイキングや回線チェックなどの機材セッティングの手順及び方法を学ぶとともに、Pro Toolsの発展的なオペレート技術を習得する。 ②実際にレコーディングをオペレートする事でレコーディングエンジニア、アシスタントエンジニアとしての経験を積んでいく。							
到達目標							
・レコーディングの全体像を理解し、常に先読みした行動がとれる。 ・Pro Tools における編集、ミキシング技術の習得。 ・コンソールなどの音響機器の操作において、実務でも素早く対応できるような技術・知識の習得。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	楽器に対する知識を深める。 ドラムセットの構造やチューニング、ギターアンプ・ベースアンプ・キーボードなどの使い方について学ぶ
【前期】 4～7回目	コンソールについて(応用編) 1年時に学んだ基本的な扱い方に加え、様々な場面に対応できるようなコンソールの扱い方を学ぶ。
【前期】 8～10回目	レコーディング実習 実際にアーティストを招き、仕込み、オペレート、バラしまで一連の流れを実践する。
【前期】 11～13回目	編集、ミックス、マスタリングについて レコーディングした素材の編集作業(リズム修正、ピッチ修正)、ミックス、マスタリングについて学ぶ。
【前期】 14～17回目	■前期試験: 実技試験を実施し、オペレートにおける正確性や対応力、ProTools・各機器の操作を問う。
【後期】 18～20回目	楽器に対して最適な録音の方法を学ぶ ドラム、ギター、管楽器、弦楽器など様々な楽器によるレコーディングの違いを学ぶ。
【後期】 21～24回目	レコーディング実習② アーティストとの打ち合わせから、仕込み、オペレート、バラし、その後のミックスダウンも含め一連の流れを実践する。
【後期】 25～27回目	編集、ミックス作業① レコーディングした素材の編集作業(リズム修正、ピッチ修正)、ミックス作業を実践する。
【後期】 28～30回目	編集、ミックス作業② アーティスト立ち合いのミックス行い作品を完成させるまでの最終工程を学ぶ。
【後期】 31～34回目	■後期試験: 実技試験を実施し、レコーディングに関する全般を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識/意欲/技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	1年時に学んだ基本的なところを元に実際のスタジオワークを想定した実習を中心とした授業を行います。 Pro Tools及びPro Toolsと連携して使用されるソフトウェアの概要を学び、実践する力とトラブル時の対処方法を習得しましょう。 難しい内容が増えてきますが、楽しんで頑張りましょう。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオ実習応用Ⅱ-β		授業形態 / 必選	演習	選択		
	学則別表上表記	レコーディング応用Ⅱ	年次	2年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA&レコーディング専攻						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいてエンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。						
授業概要							
①レコーディングスタジオを使用して、マイキングや回線チェックなどの機材セッティングの手順及び方法を学ぶとともに、Pro Toolsの発展的なオペレート技術を習得する。 ②実際にレコーディングをオペレートする事でレコーディングエンジニア、アシスタントエンジニアとしての経験を積んでいく。							
到達目標							
・レコーディングの全体像を理解し、常に先読みした行動がとれる。 ・Pro Tools における編集、ミキシング技術の習得。 ・コンソールなどの音響機器の操作において、実務でも素早く対応できるような技術・知識の習得。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	楽器に対する知識を深める。 ドラムセットの構造やチューニング、ギターアンプ・ベースアンプ・キーボードなどの使い方について学ぶ
【前期】 4～7回目	コンソールについて(応用編) 1年時に学んだ基本的な扱い方に加え、様々な場面に対応できるようなコンソールの扱い方を学ぶ。
【前期】 8～10回目	レコーディング実習 実際にアーティストを招き、仕込み、オペレート、バラしまで一連の流れを実践する。
【前期】 11～13回目	編集、ミックス、マスタリングについて レコーディングした素材の編集作業(リズム修正、ピッチ修正)、ミックス、マスタリングについて学ぶ。
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験を実施し、オペレートにおける正確性や対応力、ProTools・各機器の操作を問う。
【後期】 18～20回目	楽器に対して最適な録音の方法を学ぶ ドラム、ギター、管楽器、弦楽器など様々な楽器によるレコーディングの違いを学ぶ。
【後期】 21～24回目	レコーディング実習② アーティストとの打ち合わせから、仕込み、オペレート、バラし、その後のミックスダウンも含め一連の流れを実践する。
【後期】 25～27回目	編集、ミックス作業① レコーディングした素材の編集作業(リズム修正、ピッチ修正)、ミックス作業を実践する。
【後期】 28～30回目	編集、ミックス作業② アーティスト立ち合いのミックス行い作品を完成させるまでの最終工程を学ぶ。
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験を実施し、レコーディングに関する全般を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	1年時に学んだ基本的なところを元に実際のスタジオワークを想定した実習を中心とした授業を行います。 Pro Tools及びPro Toolsと連携して使用されるソフトウェアの概要を学び、実践する力とトラブル時の対処方法を習得しましょう。 難しい内容が増えてきますが、楽しんで頑張りましょう。
備考	レコーディング基礎Ⅱの内容を基に2コマ目として実施。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅡ		授業形態 / 必選	講義	必修	
	学則別表上表記	業界知識Ⅱ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ☐	非該当 ☒	
担当講師 実務経歴						
授業概要						
著作物の定義や著作権者の権利及び著作権隣接権について学び、それぞれの権利がどのような働きをしているのかを理解することが出来る。						
到達目標						
音楽ビジネスの仕組みを知り、著作権にまつわる企業や団体がどのような役割を果たしているかを理解し、印税の仕組みや金額、著作権保護の条件や重要性についての理解を深める。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	形のない知的財産について理解し、著作権を守る意義について理解する。 著作物の定義と著作物の種類を理解する 著作権者の権利の内容を理解する 著作権者の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ①
【前期】 4～7回目	著作権者の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ② 著作権隣接権の内容について理解する ① 著作権隣接権の内容について理解する ② 音源の権利 原盤について理解する
【前期】 8～10回目	DVD視聴NHKスペシャル「知は誰のものか」インターネットにおける違法コピーと著作権の保護期間延長について 前回のDVDからの問題点のまとめ 著作権保護期間延長に関する作文 【作文提出】 音楽業界の基本構造① プロダクションの役割を理解する
【前期】 11～13回目	音楽業界の基本構造② レコード会社の役割を理解する 音楽業界の基本構造③ 音楽出版社の役割を理解する～著作権ビジネスの流れを理解する 音楽ビジネスの現状
【前期】 14～18回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 前期テスト実施 前期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
【後期】 19～21回目	JASRACの役割について理解を深める 著作権管理事業の現状 JASRACの使用料徴収の是非について自分の意見をまとめ 【作文作成&提出】
【後期】 22～25回目	印税の仕組みがどのようにになっているか理解出来るようになる レーベルの収益について理解することができる。 リクープラインについて理解することができる。 CD以外の著作権使用料① インタラクティブ配信
【後期】 26～28回目	CD以外の著作権使用料② 動画投稿サイト CD以外の著作権使用料③ 放送～カラオケ CD以外の著作権使用料④ 演奏/上演とレンタル 私的録音補償金
【後期】 29～31回目	著作物の利用に関して 著作物の利用手続きと所有権と著作権の違いを理解する 著作物の自由利用の範囲について理解を深める 著作権侵害の行為と罰則について理解を深める
【後期】 32～36回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 後期テスト実施 後期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	前期では著作権の基本的な知識と音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割について学びます。 後期では主にJASRACの役割と印税について学びます。JASRACに関しては、インターネット上で不確かな情報が飛び交っているのが現状ですが、自身で正しい判断が出来るような知識を身につけてください。 仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	ホームルームも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。